

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	セコイア通信	編集人	谷川東子・岩崎雄吾
		発行人	小川雄二
		印刷所	株式会社 クイックス

芽吹きと変革—大学院生命農学研究科・農学部の現状—

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 土 川 覚



新型コロナウイルス感染症による影響で、世の中が大きく変わりました。何かと不便の多い今日ですが、名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。この状況が一日も早く解消され、平穏な日々に戻ることを祈念申し上げます。日頃から大学院生命農学研究科および農学部の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。また、大変な学生生活を送りつつも、不断の努力で見事に卒業・修了を迎えられた皆様に、心よりお祝い申し上げます。今後の更なるご活躍・ご発展を祈念いたします。農学部（1951年創立）および大学院（1953年創立）は、これまでに10,500名の学士、修士7,000名、博士学位取得者1,600名を社会に送り出してきました。国内および国外の産業界、行政ならびにアカデミアで活躍できる次世代リーダーの育成を目指し、農学に関わる基礎から応用までの幅広い知識と能力を涵養する教育を実践してきました。

通常のキャンパスライフとは異なる日々が続いておりますが、少しでも整った環境下での教育・研究が実施できるように、教職員が一体となって取り組んでいます。以下に、名古屋大学と生命農学研究科・農学部の近況を簡単にご報告させていただきます。

2021年4月5日に、人数を限定したうえで2020年度と2021年度の入学式を個別に実施しました。昨年度は、

総長・研究科長・学部長からのビデオメッセージ配信のみでしたので、対面開催

ができませんでしたが、多くの学生から各種催事やクラブ活動の通常実施の要望が寄せられ、これに応える形で一年遅れでの入学式となりました。参加学生の笑みがたいへん印象的でした。なお、オープンキャンパスとホームカミングデイは、オンラインでの実施となりました。2021年度の大学院生命農学研究科および農学部での講義・実習は、感染予防対策を講じたうえで対面開講が基本でしたが、登校が不安な学生にもオンデマンド等で配慮しました。キャンパス内で多くの学生と出会うという普通の光景がたいへん嬉しく感じられましたが、名古屋大学全体では対面授業の割合は70%程度であります。その一方、多くの留学生や外国人研究生が入国できないままの状態が続いており、教育・研究活動が滞りがちです。このような状況を打開するために、各研究室の教員がオンラインでのコミュニケーションをいろいろ工夫し、学生が置かれている状況を把握しつつできる限り丁寧に対応することを心がけています。

このように、先が見通せない日々が続いておりますが、次世代の人材を育む動きも芽吹いています。その一つが、「東海国立大学機構融合フロンティア次世代

新同窓会（一般社団法人）への事業・財産・会員移行について

この度新たに一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会が設立されました（2021年12月21日定款認証、2022年1月14日設立登記）。現行の同窓会の事業・財産・会員は2022年9月1日をもってすべて一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に移行されます。なお会員の皆様は2022年9月1日をもって自動で一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に移行されますが、新組織への移行をご希望でない場合は以下要領でご連絡をお願い申し上げます【2022年4月30日必着】。詳しくは22ページをご覧ください。

リサーチ事業」並びに「名古屋大学融合フロンティアフェロースHIP事業」です。いずれも、博士後期課程学生の経済的支援を強化することによって、「我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な博士人材」と「融合領域を開拓し、未来の知の創出や社会実装を担い、グローバルに活躍できる博士人材」の育成を目指す取り組みです。前者は、文部科学省「次世代研究者挑戦的研究プログラム」と東海国立大学機構によって実施されるものであり、後者は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースHIP創設事業」と名古屋大学によって実施されるものです。博士後期課程学生を対象にしたユニークな二つのプログラムがほぼ同時に立ち上がることにより、経済的にも安心して博士研究に取り組むことができる基盤が構築されました。今後は、博士人材が農学系分野において幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることが大切になりますので、是非とも農学部同窓会会員の皆様のご協力を賜れば幸いです。

また、文部科学省が定める第4期中期目標・中期計画期間が本年4月から始まります（2028年3月までの6

年間）。一昨年に発足しました東海国立大学機構も、本格的な運営体制が整ってまいりましたが、農学部・生命農学研究科も岐阜大学との間で更なる機能強化を図るとともに、東海地域における農学領域の産官学連携プラットフォームの構築やグローバルな人材育成と研究の共創発展を目指したいと考えております。

ご案内のように昨年の総会におきまして、農学部同窓会の一般社団法人化に関する議案が議決されました。これは、農学部創立70周年を節目とする大きな変革であり、本年9月1日に、一般社団法人名古屋大学農学部・命農学研究科同窓会が発足します。詳細につきましては、本セコイア通信の他面をご覧くださいと思います。また、毎々のお願いで恐縮ですが、生命農学研究科は名古屋大学特定基金として「教育研究基金」を設置し、在学生の学業を支援する各種奨学金制度を設けていますので、次世代の育成に向けてのご理解とご協力を是非ともお願いいたします。

70年の伝統を礎とした新たな「芽吹き」と「変革」が着々と進んでいることをお伝えしつつ、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

同窓会を一般社団法人に組織改編します

名古屋大学農学部同窓会会長 小川 雄二

名古屋大学農学部同窓会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、今年度、農学部・生命農学研究科をご卒業、ご修了された皆様方には、心よりお祝い申し上げますとともに、晴れて同窓会員になられた皆様に熱烈に歓迎いたします。

申し遅れましたが、小生は2021年10月16日の同窓会総会において、福島前会長の後任として会長に選任されました小川雄二でございます。1978年に農芸化学科を卒業、1983年に食品工業化学専攻博士課程を満了し、現在は愛知県内の私立大学に勤務しております。

この一年、農学部同窓会はその重要な活動である卒業・修了祝賀会、総会懇親会、卒業・修了50周年記念祝賀会などの対面の企画を中止せざるをえませんでした。対面で語り合うイベントを楽しみにしておられた同窓生の皆様には、心よりお詫び申し上げます。一方で、総会、評議員会、講演会はオンラインで開催いたしました。場所と時間の制約がなくなったこと、気軽に参加できることなどから、コロナ禍の前に比べて全国各地から多くの皆様にご参加いただくことができ、意見交換や質疑応答も旺盛に行われました。同窓生が全国各地で、そして世界各国で活躍しております本同窓会にとっては、遠方の方やお忙しい方にとって

も参加しやすいオンラインでの企画は、同窓会活動の可能性を大きく広げるものとなりました。

さて、本年は農学部同窓会員の皆様に特別に重要なお知らせがございます。同窓会の更なる活性化を目的として、任意団体である現組織「名古屋大学農学部同窓会」を、新組織「一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会」に組織改編することを予定しております。今後、同窓会員の皆様には、新組織の会員に移行していただくこととなります。その趣旨や移行のスケジュールなどは、本セコイア通信で詳しくご説明させていただいておりますので、該当部分をぜひご覧ください。これまで、その活動や組織運営の多くを同窓生でもある名古屋大学農学部教員を中心に担っていただけてきました。しかし、同窓生のほとんどは、名古屋大学農学部以外の社会の様々な分野で活躍しておられます。そうした同窓生の皆様が、より参加しやすい同窓会に変えていきたいと考えております。

大学のお近くに住まいの方、母校の今を実際にご確認されたい方、懐かしい恩師や同窓生と旧交を温めたい方は対面で、遠くで暮らしておられるなどで名古屋



大学にお越しになるのが困難な方はオンラインで参加できる、新しい時代の同窓会活動を進めて参りたいと思います。

同窓生の皆様におかれましては、これまで以上に同窓会活動に関心を持っていただき、お気軽にご参加いただきます様、心よりお願い申し上げます。

農学部での33年

フィールド科学教育研究センター
森林・環境資源科学専攻(森林保護学) 肘井直樹



1988年に採用されてから33年余、大学入学から数えれば実に46年余の歳月を、この名古屋大学で過ごしました。まさに、矢の飛ぶが如き月日の流れです。卒研究生・大学院学生・研究生時代は、造林学研究室(現 森林生態学研究室)に在籍していましたが、当時から、今で言うところの生物多様性、とくに森林の生物群集の多様性という、漠として捉え難い対象に興味がありました。以来、今日まで、演習林(現 稲武・設楽フィールド)の管理・運営との二足のわらじを履く形で、森林保護学研究室の卒研究生、大学院生の皆さんとともに、森の生きものの生態解明を通して、森林生態系の生物多様性保全や森林の保護に関わるさまざまな課題に取り組んできました。森林生態系はよく人間の身体にたとえられます。私たちと同じように、森林もまた、さまざまなストレスに晒されており、生物間ネットワークのバランスに狂いが生じると、病気にかかったり、特定の生きものの大発生が起こったりすることがあります。複雑で動的な森林生態系というシステムを、いかにして安定的に維持できるか—これまでに積み上げられてきた多くの知見をもってしても、その答えにはなかなか辿りつけません。森林はそれだけ奥深い、ということなのかもしれません。

一方、大学の方に目を移すと、とくにこの20年余りの間、大学を取り巻く社会状況は激変し、大学院重点化や大学法人化を経て、大学に求められる使命も大きく変容してきました。また、この3年余りは、コロナ禍を通して、科学と社会・経済・政治との関わりや、非常時における大学教育や研究活動のあり方を考えさせられる毎日でした。2005年以降、日本の研究力が低

下し続けていることも論文数減少などによって明らかになってきましたが、このことに大学院博士後期課程学生の減少が大きく影響していることは、疑いようもありません。経済的支援やキャリアパス拡充が必要なことは言うまでもありませんが、将来への不安はあっても研究を続けたいと思えるような、かつての研究現場の熱と空気感を取り戻すことも必要ではないかと思えます。

私が研究対象としてきた森林も、温暖化、熱帯林の減少、資源循環の目詰まりなど、さまざまな面で岐路に立たされています。森林が、私たちの周辺環境のみならず、とくに温暖化防止や生物多様性保全の観点から、地球環境にも大きな影響を及ぼしていることは衆知の事実です。どれもがごく当たり前のことしか言っていないSDGsがこれほど注目されるようになったのは、今まさに、森林を含めて地球全体が、色々な局面で待たなしの状況まで来てしまったからにほかなりません。森林科学分野に限らず、この農学部・生命農学研究科に学び、さまざまな分野で活躍されている、またこれから活躍されるであろう皆さんは、これからも常に、広い視野と問題意識、疑う視点を持ち続け、自らの力を信じて、立ちほだかるさまざまな課題に取り組んでいただきたいと思います。

最後になりますが、この33年余の間、多くの歴代の先輩方、同僚や農学部の先生方、事務職員、技術職員の方々にも、さまざまな形でお世話になりました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

人との出会いの中で、私が目指した作物学

山内 章



私の研究は、様々な人と出会うたびに、大きく展開してきました。大学院生の時には河野恭廣先生にご指導いただきました。当時の農学部は、非常に国際的な雰囲気満ちていて、世界トップクラスの研究者がよく出入りされていました。たとえば、私が修士の時には、イリノイ大学のハーラン教授の講義を受け、その講義録は、「ジャック R. ハーラン. 1984. 作物の進化と農業・食糧. (訳) 熊田恭一・前田英三. 学会出版センター」として出版されました。熊田先生は土壌学研究室の教授(元農学部長)、前田先生も資源植物環境学研究室教授であり、多くの先生方がこのような国際プログラムに様々な形で関わっておられました。

他にも、生物センターの前身である、生化学制御研究施設教授であった赤沢亮先生は、国際イネ研究所(IRRI)で緑の革命に至る基礎的な研究で大きな貢献をされましたし、学部長もされた瓜谷郁三先生や齊藤哲夫先生は、フィリピンのピサヤ農科大学(現在のピサヤ国立大学)やフィリピン大学ロスバニョス校と70年代後半から人的交流も含めて非常に密接な共同研究を進めておられました。両校とも2019年には、本学との間で全学学術交流協定を締結し、ますます連携を深めています。ちなみに、前者の現学長のDr. Tulin Edgarは、山根恒夫名誉教授(現分子生物工学研究室(中野秀雄教授))の指導生として博士学位を取得されています。

私は前期課程修了後、JICAが実施している青年海外協力隊に参加し、フィリピンで、熱帯モンスーン地帯の作物生産現場に直に触れる機会を得ました。また、当時植物病理学研究室に所属しておられた谷口武先生がピサヤ農科大学(レイテ島)に共同研究に来ておられ、船とバスなどを乗り継いで訪ねたことも懐かしい思い出です。さらには、憧れのIRRI(ルソン島)にも、

飛行機やバスを乗り継いで訪れましたが、知り合いもいない私は、そのフェンス越しに研究所を眺めること

しかできず、いつかここに来て研究がしたいと思い、その場をあとにしたことを覚えています。本学はその後数々の連携実績を積み上げ、このIRRIとも2019年に全学学術交流協定を締結しました。

私は、帰国後、博士学位を取得し、アメリカのTexas Tech大学とTexas A & M大学でのポスドク時代に、Shaobing PengとLen Wadeと出会いました。この2人はその後の私の研究者人生に決定的に影響を与えました。私は1990年に幸いにも名大農学部助手として採用していただいて帰国しました。この2人がIRRIで職を得たことを知り、研究費を獲得しつつ、1995年から共同研究を始めました。当時IRRIは、イネ栽培の生態系別(灌漑イネ、陸稲、天水田イネ、洪水常襲地帯イネ)に研究チームを編成していて、Shaobingは灌漑イネ、Lenは、天水田イネチームのリーダー的存在でした。IRRIに長期で共同研究のために来られていた近藤始彦先生(現作物科学研究室教授)にお世話になったのもこの頃です。

日本の作物学では、イネでは水稲と陸稲のみを対象にします。しかし、IRRIで研究をして学んだ最も大事なことは、世界のイネの増産の鍵を握っているのは天水田イネであり、これまで学んできた水稲や陸稲とはまったく別のイネとして取り扱わないと理解できないということでした。

このように今後ともアジアとともに学び続けたいと思っています。こうした機会を提供してくれた農学と農学部から感謝しています。

去るにあたって思うこと

応用生命科学専攻(応用酵素学) 吉村 徹



かなり前の話になりますが、当時私が住んでいた宇治では藁をかけた茶の木をよく見かけました。日光を遮ると茶の旨味成分であるテアニンが蓄積すると習っていたので、「そうなんだ」と思っていました。ある時、静岡では藁を被った茶の木をほとんど見ないことに気づいて、県の試験場の方に「藁は被せないのですか」と伺ったところ、「ああテアニンですね。テアニンを珍重するのは関西で、こちらではあまり重きを置いていません」との答えでした。テアニンが旨味成分かどうか決着をつけるなどという無粋なことはどうでもよいのですが、私は「(自然) 科学は人類が試行錯誤を経て作り上げてきた共通の方法論で行うものだから、正しく行えば同じ答えに至るはずだ」と素朴に思っていたため、サイエンスにも学派(大げさですが)があることがたいへん新鮮でした。その後、同じテーマを研究する場合でも大学や研究者によって流儀や問題意識が異なることを多々経験しました。今ではそういった多様性が研究の妙味を引き出すとともに、研究に新しい展開をもたらすものと理解しています。

関西で「テアニン学派」が形成されたのは、テアニンを発見された酒戸弥次郎先生の研究が、先生の人格とともに強烈なインパクトを与えたからだと推測します。また弟子筋が脈々とそれを伝えて行ったからでもあるでしょう。テアニンの件は私たちの生活を豊かにしてくれたと思います。一方こういった伝統は、ネガティブな方向に向かえば誤った権威主義やしがらみといった類のものになるのでしょうか。そういったことが科学の進展を阻害してきた例は、鷗外らが脚気栄養説を認めず日清・日露戦争で無用な犠牲を出したことな

ど、多々あるように思えます。

私は本学も含めて4大学、6人の教授の下で仕事をしてきました。教授という立場になったのは本学が初めてなので単純に比較はできませんが、生命農学研究科には妙なしがらみが全くなく、(教授にとっては)たいへん自由で過ごしやすいところでした。そのような環境にありながら伝統の欠片になるような研究すらできなかったことは、私の力不足であり忸怩たる思いがいたします。しかし、このような中で18年間も研究生生活を続けさせていただけただことは私にとってはたいへん幸せでした。

ただ心残りもあります。私は本学部・研究科出身者に共有されている ethos とでも言うべき「何か」を共有することができなかったのではないかと思います。テアニンの発見を学説にまでに至らせる「何か」であり、またその時々々の社会情勢に右顧左眄することなく大学の理念を支える「何か」です。結局のところ、この「何か」を共有することは青春時代を本学・本研究科で過ごした同窓生の特権なのでしょう。

とは言え、この18年間で100人近い学生さんが私たちの研究室に来てくれました。私の背後に彼らの卒業論文や修士論文が並んでいます。そのタイトルを眺めると、一人一人の顔や交わした会話が浮かびます。そうした皆さんに、そしてお世話になった本研究科の方々に心より御礼を申し述べますとともに、農学部・生命農学研究科のますますのご発展をお祈りいたします。

令和4年度名古屋大学農学部同窓会 評議員会、総会、講演会、懇親会のご案内

農学部では、名古屋大学ホームカミングデイに合わせて部局の同窓会を開催しております。昨年と同様に、本年も新型コロナウイルス感染症の影響による不確定性を考慮し、対面実施とオンライン実施の両者を睨んで行事の準備を進めております。以下、対面での行事予定についてお知らせをいたします。詳細や実施方法の変更等に伴うアップデートは、農学部同窓会（セコイア会）ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）にてご案内をいたしますので、ご確認ください。

○評議員会

日 時：2022年10月15日（土） お昼前後
場 所：名古屋大学農学部

○総会、講演会

日 時：2022年10月15日（土） 午後より
場 所：名古屋大学農学部
会 費：無料（講演会は一般に公開いたします）
講 師：小坂善太郎（こさか ぜんたろう）
昭和63年3月本学農学部林学科（治山工学研究室）卒業
林野庁 森林整備部長
演 題：(仮)「日本の森林 過去・今・未来～林業イノベーション、2050 C Nなど～」

○懇親会

日 時：2022年10月15日（土） 夕刻より
場 所：名古屋大学農学部（予定）

連絡先：農学部同窓会 総務 木羽 隆敏
メールアドレス：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp

同窓会の開催について

同日に個人的に同窓会を企画される場合、農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。同窓会事務局（dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp）まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

農学部第18回卒業生および修士第16回修了生の卒業50周年記念祝賀会の案内

農学部第18回卒業生および修士第16回修了生の50周年記念祝賀会は、名古屋大学ホームカミングデー（2022年10月15日）に合わせて開催する予定です。後日、祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。万障お繰り合わせの上ご出席ください。新型コロナウイルスの感染状況によっては、50周年記念祝賀会に代わる企画をご提案させていただきます。祝賀会に関する情報は農学部同窓会ホームページに掲載いたしますので（8月以降）、ご覧ください。

卒業生の言葉

4年間を振り返って

生物環境科学科 植物土壌システム研究室 柵木 香奈穂

私は中学高校で天文部に所属しており、中学2年生の時に見た地球科学系のテレビ番組をきっかけに自然の尊さを漠然と感じるようになりました。高校にあがる頃には農学部に入りたいと決めていたので、合格を知ったときは本当に嬉しかったのを今でも鮮明に覚えています。実家から離れて暮らすこと、知り合いがいないことへの不安もありつつのスタートでしたが、農学部の同級生は本当に素敵な人ばかりで5月になったころには大学に通うのが楽しくて仕方ありませんでした。特に生物環境科学科は38人と少人数なので、まるで高校のクラスのような雰囲気でも居心地の良い環境で過ごすことが出来ました。実験と一緒に頑張ったことや図書館で友人たちと一生懸命試験勉強に取り組んだことは、今では本当にいい思い出です。

私は入学時から3年次の稲武実習を楽しみにしていました。新型コロナウイルスの影響で稲武実習がなくなってしまったことは本当に残念でなりません。それでも、3年の6月ごろからは実験実習を一部対面で行えるようになり、学生や先生方と顔を合わせるというこれまで当たり前だったことがまた出来るようになって本当に嬉しかったです。

研究室に配属されてからは、それまでは関わりの少なかった先輩や先生方と過ごす時間がほとんどになりました。自分の未熟さをひしひしと感じつつも、親身になって相談に乗ってくださる先生や先輩方、同期に恵まれたおかげもあって実験をすることがとても楽しく、充実した日々を送ることが出来ました。1つのテーマに大学院までの3年間取り組むことは地道なことでもありますが、主体的に取り組むことでそれ以上に興味愛着が湧くようになってきました。大学院に進学してからは研究をつづけながら、これまでお世話になった分私も後輩たちに頼ってもらえるような院生になれるようにより精進していきたいです。

最後になりますが、周りの人に恵まれて充実した4年間を過ごすことが出来ました。私の大学生活を支えて下さった先生方、先輩後輩の皆さん、同期のみんな、そして離れていてもいつも応援してくれた家族、関わってくださった全ての方に心から感謝いたします。皆様の未来に幸多からんことを願っております。



大学生活を振り返って

資源生物科学科 資源昆虫学研究室 原屋 正龍

名古屋大学に入学してから早くも4年が経ち、もう少しで卒業というところまで来ました。しかし、大学に入学してからの多くの思い出は、つい昨日のこのように思い出されます。

私は、高校から始めた陸上を続けるため、大学入学後も陸上部に入部しました。週4日の練習に参加し、シーズン中は多くの試合にも出場しました。名古屋大学陸上部の練習は厳しく、周りのレベルも高かったので心が折れそうになることもありましたが、練習がきつい時でも、一緒に練習する仲間と励まし合うことで乗り越えることができ、自分の実力を高めることができました。辛い練習を乗り越えた後、大会で自己ベストを更新したときの嬉しさは、何度経験しても忘れられません。それが「もっと練習したい」というモチベーションにもつながり、さらなる実力の向上にもつながったと思います。一方で、部活の練習や大会はテスト期間中でも参加しなければならず、勉強の時間がなかなか取れないときもありました。しかし、その環境が逆に、限られた時間をどう使うかといった計画性の向上につながったと思います。部活と勉強の両立はかなり大変でしたが、それを続けることで得られたものはとても大きく、部活を最後まで続けて本当に良かったと思います。

3年生の冬には研究室に配属され、4年生からは卒論に向けての研究が本格的に始まりました。実験がうまくいかなかったり、実験とセミナー発表の準備の並行が大変だったりして辛いこともありましたが、研究室の同期と支え合って乗り越えることが出来ました。私は卒業後、大学院へ進学しますが、1年間の経験を生かし、これまで以上に研究に励みたいと思います。

最後になりますが、これまで私を支えてくれた家族や友人、親身になって接して下さった先輩方や先生方に心から感謝申し上げます。そして、これからも変わらぬ応援を、よろしくお願ひします。



大学生活と絵画

応用生命科学科 植物情報分子研究室 柏田星南

人生って絵みたいじゃん。

よく言われることだが、中学生の頃からそう思うようになった。それぞれが持つ絵に1つとして同じものではなくて、何気なく描き足したものがいい味を出したりもする。だから、これまでの人生も自分の直感に従ってきた。高1の時に名大農学部を志望するようになったのも、なんかしっくりくるかも、と感じたから。結果、わたしの選択は間違っていなかったと思う。

それから、これまた直感で飛び込んだビッグバンドのサークル。わたしの絵に、これまでなかった彩りが加えられた。ずっと吹奏楽をしてきた自分にとってジャズは未知の世界。だからこそ絶対に上手くなりたかったし、全力を注ぎたかった。右も左も分からない中、経験者に聞いてみたりレッスンに通ったり、合宿で毎日へろへろになりながら10時間練習したり。その甲斐あってかできることがどんどん増えて、ついには重責パートやソロを任せてもらえるようになった。意見を言うのも苦手だったのに気づいたら言えるようになっていたし、おかげで正解のない中で自分はこう演奏したい、という意見を仲間とぶつけ合うことができるようになって、音楽ができていく過程に胸が高鳴った。

サークルを理由に他のことを疎かにするのも嫌で、いろいろなことを夢中でこなした。図書館で夜まで友人たちとああでもないこうでもないと思を悩ませたり、珍しいアルバイトをしてみたり、思いつきで旅に出かけてみたり…。自分の心が動く経験をたくさんする中で、知識も、尊敬と信頼のできる仲間も、確固たる価値観も得られた。

10年後の私の絵はどうなっているだろうか。この4年間の勉強も遊びも、楽しいことも辛いことも、自分の絵を描く上で全て大切なパーツになっている気がする。この先、濁った色でキャンバスを塗りつぶす苦しい日だって来ると思う。それでもいつか絵に深みを加える糧になると信じて、いくつになっても成長し続ける自分でいたい。



学生生活を振り返って

応用生命科学専攻 ゲノム情報機能学研究室 寺前智瑛

愛知県に生まれ、子供の頃から憧れていた名古屋大学での学生生活も、はや6年となりました。振り返ってみると、この6年間でたくさんの思い出を得て、充実した日々を過ごすことができましたと感じます。学部生の頃は多くの専門的知識を学び、4年生からは研究室に配属されて毎日実験を行う日々を過ごしてきましたが、大学院での2年間はコロナ禍での生活となりました。

大学院生になった4月に緊急事態宣言が出て、しばらく研究室に行けない日々が続きました。週に1度行われていたセミナーはオンラインで行うことで対応できましたが、実験は大学に行かなければどうにもならず、休校中はほとんど進めることができませんでした。規制が緩和されてからも密を避けるため隔日登校の期間がしばらく続き、思うように実験ができない時もありました。そんな状況の中でいかに研究をうまく進めるかを考えながら計画を立て、効率良く行う力が身についたと感じます。いろいろなことが制限された中での生活でしたが、その中で得たものも多かったです。大学院生活の中では、学部生の実験実習のTAをしたことも大きな経験となりました。実験を補助するにあたって内容を復習し直すことで自分自身も理解が深まりましたし、実験終了後に学部生の子がわざわざ質問しに来てくれるなど、多くの学生と交流することができたのも良い思い出です。コロナ禍で友人と遊びに行くことは難しかったですが、普段の学生生活の中で気の合う友人と他愛もない話をする日々も楽しかったです。

春からはバイオ関係の会社に就職します。新しく学ぶことも多くあると思いますが、その中で今まで大学・大学院で学んできた知識や得た経験を活かしながら、世の中の役に立つ仕事をするように精進していきたいと思っています。

最後になりますが、今までお世話になった研究室の先生方やいつも温かい助言をくださった先輩方、そして学生生活を支えてくれた家族に、心より感謝いたします。



令和3年度総会、講演会、懇親会の報告

令和3年度の総会を、名古屋大学ホームカミングデーに併せて、令和3年10月16日（土）に Zoom 会議として開催いたしました。会長ならびに名誉会長の挨拶に続き、令和2年度の事業・決算報告を行った後、令和3年度役員を選出し、令和3年度事業計画・予算を審議しました。さらに、本会の一般社団法人化に関連した種々の事項を審議しました。総会には39名の方にご出席いただきました。

講演会は、福與伸二氏（サントリースピリッツ株式

会社執行役員、5代目チーフブレンドラー、昭和59年3月本学農学部農芸化学科（植物栄養及び肥料学研究室）卒業）によるご講演「ジャパニーズウイスキーの歴史と現在」を ZOOM を用いて実施しました。本講演会は一般の方々にも公開され、約80名の参加がありました。また、講演の動画を youtube で参加登録者に限定配信し、137回の再生回数がありました。

総会終了後の懇親会は残念ながら実施しませんでした。

農学部第17回卒業生および修士第15回修了生の卒業50周年記念祝賀会の報告

コロナ禍により対面での記念祝賀会の開催が困難となったため、代替企画「同窓生からの寄稿文」として卒業・修了50周年の方々よりお寄せいただいた寄稿文をまとめ、福島会長による序文を加えた PDF とし、名古屋大学ホームカミングデー開催日の令和3年10月16日（土）より、農学部同窓会ホームページにて公開

いたしました。8名の同窓生の方々より頂戴しました玉稿は、いずれも在校生への温かいエールと混迷する現代を生き抜くためのヒントに富んだ素晴らしいものであり、併せてお送りくださった沢山のお写真が更なる彩りを添え、約90回の推定閲覧数を記録しました。



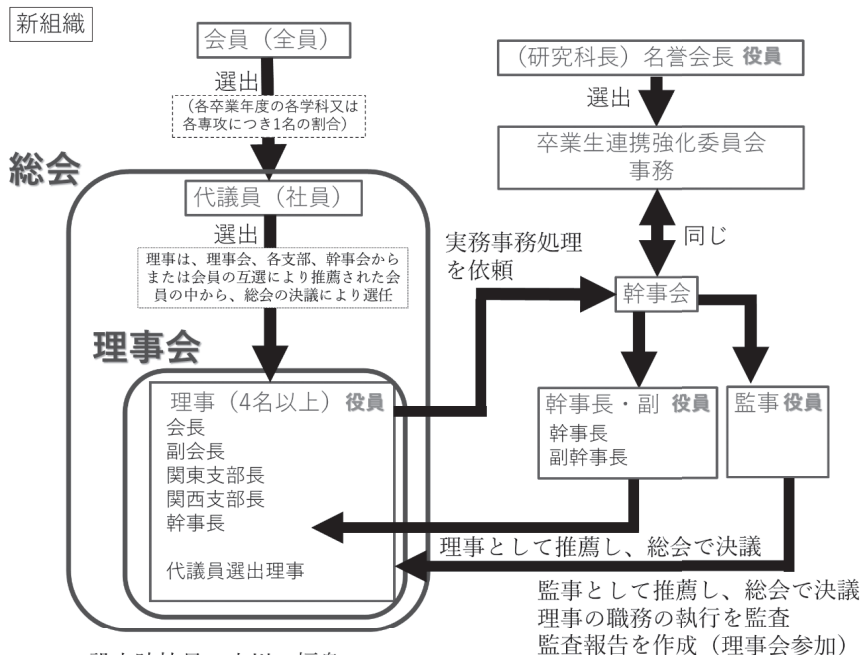
名古屋大学農学部同窓会評議員会開催報告

～一般社団法人化および現評議員の新組織における代議員就任に関して～

2021年9月23日に農学部同窓会評議員会が Zoom で開催されました。この会では福島会長から一般社団法人化の目的、新体制、定款やスケジュールなどについて説明があり、その後現評議員の皆様一般社団法人の代議員へのご就任の依頼がありました。この件に関

して「会員への周知も必要」、「総会の定足数」など複数のご質問・ご意見をいただいたのち、評議員の皆様一般社団法人化・および代議員就任に関してご賛同をいただきました。

一般社団法人化後の運営体制を下記図に示します。



設立時社員：小川、福島
設立時理事：小川、福田、石川、加藤、福島、田中、邊見
設立時代表理事：小川

人事異動 (2021年1月1日～2021年12月31日)

日付	氏名	異動内容	職名	所属
2021.1.1	柴田 貴広	昇任	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.1.1	山内 卓樹	採用	准教授	生物機能開発利用研究センター
2021.3.31	竹中 千里	定年退職	教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2021.3.31	堀尾 文彦	定年退職	教授	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2021.3.31	小林 哲夫	定年退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.3.31	服部 束穂	定年退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.3.31	松岡 信	定年退職	教授	生物機能開発研究センター
2021.3.31	中崎 敦夫	退職	准教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.3.31	松尾 美幸	退職	講師	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2021.3.31	小林 美里	退職	講師	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2021.4.1	中道 範人	昇任	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.4.1	稲垣 哲也	昇任	准教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2021.4.1	三屋 史朗	昇任	准教授	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2021.4.1	新庄 莉奈	採用	特任助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.4.1	森 愛理	採用	特任助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.4.1	小川 直也	採用	技術職員	全学技術センター分析・物質技術支援室組成分析・構造解析技術グループ
2021.5.1	木村 眞	昇任	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.6.1	CARTAGENA Joyce Abad	配置換	准教授	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2021.6.1	羽根 正弥	配置換	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.6.30	松下 泰幸	退職	准教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2021.7.1	森田 真希	配置換(出)	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.7.1	岡田 聡史	採用	特任助教	生物機能開発利用研究センター
2021.8.1	土岐 和多瑠	昇任	講師	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2021.11.1	杉浦 大輔	昇任	講師	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻

(人事係より提供された情報をもとに作成しました。糖鎖生命コア研究所への異動関係は除いております。)

農学部同窓会ホームページ案内

農学部同窓会の活動や、農学部研究室の変遷などに関する情報は、名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。ホームページに関するご意見やご要望等がございましたらぜひお寄せください。（担当：浜島 hamajima@agr.nagoya-u.ac.jp）

令和2年度事業報告

- 1) 卒業・修了50周年記念企画の実施
卒業・修了50周年の方々よりお寄せ頂いた寄稿文をまとめ、卒業・修了50周年記念企画「同窓生からの寄稿文」として、令和2年10月17日より農学部同窓会ホームページにて公開した。
- 2) 総会、講演会の開催
令和2年10月17日、Zoom を利用してオンラインによる総会を行った。
同日から翌日まで、山本敦司氏（日本曹達（株）・農林害虫防除研究会「殺虫剤抵抗性対策タスクフォース」専門委員）による講演「～害虫防除に必要なもう一つのテクニック～殺虫剤抵抗性管理・対策を生産者に伝える」を YouTube 動画にて配信した。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
令和3年3月25日の卒業・修了祝賀会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。卒業・修了記念品は、感染防止措置を執った上で行われた学位授与式にて配布した。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
令和3年3月に発行した。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかった。
- 6) 同窓会名簿データの管理
同窓会名簿データの更新を行った。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。
- 8) 評議員制度の実質化
評議員制度の実質化を引き続き進めた。
令和2年10月17日の総会に先立ち、電子メールを利用した評議員会を開催し、同窓会組織改革に係る審議を行った。
- 9) 同窓会組織改革
令和2年度の総会にて承認された同窓会組織改革案に沿って議論ならびに準備を進めた。

令和3年度事業計画案

- 1) 卒業・修了50周年記念企画の実施
卒業・修了50周年の方々よりお寄せ頂いた寄稿文をまとめ、卒業・修了50周年記念企画「同窓生からの寄稿文」として、令和3年10月16日より、農学部同窓会ホームページにて公開する。
- 2) 総会、講演会の開催
令和3年10月16日、Zoom を利用してオンラインによる総会および講演会を開催する。
講演会：福與信二 氏（サントリースピリッツ（株）執行役員、5代目チーフブレンダー）「ジャパニーズウイスキーの歴史と現在」。Zoom によるライブ配信。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
令和4年3月25日に卒業・修了祝賀会を開催する。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
令和4年3月に発行する。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会ホームページのアップデートを完了するとともに一層の充実を図る。
- 6) 同窓会名簿データの管理
同窓会名簿データの更新を行うとともに、要請に応じて名簿情報の提供を行う。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。
- 8) 新規事業の実施（継続）
農学部同窓会の交流を活性化するための新たな事業を考案する。
- 9) 同窓会組織改革
同窓会組織改革について、引き続き議論ならびに準備を進める。

名古屋大学農学部同窓会 令和2年度決算

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【収入の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会費等	2,204,376	永久会費	1,320,000	66名
		一般会費	195,000	39名
		寄付金	541,000	78名
		広告掲載費	148,376	10件
令和2年度総会懇親会費	0			
前年度繰越金	22,239,400			
合計	24,443,776			
(実質収入 2,204,376)				

【支出の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会報発行費	1,425,910	会報印刷・発送	1,425,030	10000部(8,636部発送)
		振込手数料	880	2件
令和2年度総会	30,000	講師講演料	30,000	山本先生講演
第16回卒業50周年祝賀会	0	飲食代	0	中止
		事務費	0	
評議員会、 ホームカミングデー	0	飲食代	0	オンライン開催
		役員交通費	0	学外理事評議会出席
		事務費	0	
卒業・修了祝賀会	157,370	飲食代	18,000	なごみ酒 15本
		記念品代	87,915	記念栴
			11,495	三折パンフレット
		役員交通費	39,960	3件
役員報酬	180,000	役員報酬	180,000	15×12,000
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	
		関西支部	30,000	
		振込手数料	0	その他に計上
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	33,657			
その他諸費用	40,081	交通費	0	学外理事理事会出席(0回)
		課税納付	16,231	役員報酬・講演料・アルバイト代
		通信費等	22,655	広告費請求、執筆依頼文書の送付
		事務用品	1,195	文房具など
次年度繰越金	22,236,758			
合計	24,443,776			
(実質支出 2,207,018)				

名古屋大学農学部同窓会 令和3年度予算

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【収入の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会費等	2,190,000	永久会費	1,400,000	70名
		一般会費	250,000	50名
		寄付金	420,000	70名
		広告掲載費	120,000	8件
令和3年度総会懇親会費	0			中止
前年度繰越金	22,236,758			
合計	24,426,758			
(実質収入 2,190,000)				

【支出の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	1,400,000			10000部(8900部発送)
令和3年度総会	30,000	講演料	30,000	福與先生講演
		講師交通費	0	オンライン開催
		役員交通費	0	オンライン開催
		懇親会費	0	中止
第16回卒業50周年祝賀会	0	飲食代	0	中止
		事務費	0	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	281,000	飲食代	110,000	
		記念品代	130,000	
		役員交通費	41,000	3名
新規事業	250,000			
組織改革関連費用	250,000	司法書士費用		一般社団法人-設立関連費用
		-設立手続き代理 (立替金)新法人の設立費用	100,000 150,000	印紙税など
ホームページ管理費	50,000			
役員報酬	168,000		168,000	14名×12000
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	令和3年度分
		関西支部	30,000	令和3年度分
事務局員雇用	1,000,000			
郵便振替手数料	35,000			
その他諸費用	78,000	交通費	26,000	学外理事理事会出席
		課税納付	17,000	役員報酬・講演料など
		通信費	25,000	発送費など
		事務費	10,000	文房具など
剰余金	20,794,758			
合計	24,426,758			
(実質支出 3,632,000)				

名古屋大学農学部同窓会 令和4年(4-8月) 予算

令和4年4月1日～令和4年8月31日

【収入の部】※

※4月～8月の収入見込み

費目	金額	細目	金額	備考
会費等	1,890,000	永久会費	1,200,000	60名
		一般会費	150,000	30名
		寄付金	420,000	60名
		広告掲載費	120,000	8件
前年度繰越金	20,794,758			
合計	22,684,758			
(実質収入 1,890,000)				

【支出の部】※

※4月～8月の支出見込み

費目	金額	細目	金額	備考
立替金(新規事業)	350,000			一般社団法人-設立, 運営関連費用
ホームページ管理費	50,000			新組織ホームページ準備など
事務局員雇用	420,000			半期分
郵便振替手数料	35,000			
その他諸費用	61,000	交通費	26,000	学外理事-理事会出席
		通信費	25,000	発送費など
		事務費	10,000	文房具など
一般社団法人名古屋大学農学部・ 生命農学研究科同窓会への拠出金	21,768,758			8月末の残額を新組織に移管する
合計	22,684,758			
(実質支出 916,000)				

※新組織に移行する前の令和4年4月から8月までの予算となります。収入は4月～8月期に集中するので例年に近い一方で年度後半の主要行事が含まれないため、新法人設立にかかる費用を計上しても支出は少なくなっています。

令和3年度 同窓会 役員

名誉会長	土川 覚 (研究科長・生物システム工学)	理事 (HP)	浜島 りな (資源昆虫学)
会長	小川 雄二 (学外)	理事 (名簿)	松山 秀一 (動物生産科学)
副会長	福島 和彦 (森林化学)	理事 (会報)	谷川 東子 (植物土壌システム)
関東支部	石川 靖文 (学外)	理事 (会計)	中西 洋一 (光合成科学)
関西支部	加藤 壽郎 (学外)		中道 範人 (植物統合生理学)
理事 (総務)	岩崎 雄吾 (分子生物工学)	事務	赤池美紀子
	木羽 隆敏 (植物情報分子)	監査	田中 隆文 (森林水文・砂防学)
	稲垣 哲也 (生物システム工学)		邊見 久 (応用酵素学)
	伊藤 香純 (実践アジア開発)		
	三屋 史朗 (植物生理形態学)		

関東支部だより

関東支部長 石川 靖文 (S56食 D)

関東支部では、初夏の「新卒者歓迎会」と晩秋の「総会」を定例行事としている。いずれも東京神田の學士會館で開催してきたが、コロナ禍の影響で、今年度も、共に Zoom オンラインでの開催を余儀なくされた。

「歓迎会」では、新卒者に向けた“いい話”の提供を目的に、令和3年6月12日（土）13:00～16:00「若者に贈る先輩からのメッセージ」と題するセッションを開催した。有志5名が、働く先輩として、体験談や助言を伝えるというもので、参加者は、在校生、新卒者、既卒者・支部役員を含めて19名であった。懇親のため自己紹介のコーナーも設けたが、北欧からの参加もあり、オンラインのメリットを感じさせた。若い参加者からは「ヒントになった」「役に立った」「興味深く楽しく視聴できた」との感想が寄せられた。

これを受け、令和4年1月26日（水）19:30～21:30、就職・進学を目前にした在校生にエールを送るべく「働く先輩から在校生に贈るメッセージ」と題し、有志9名によるセッションを開催した。参加者20名、司会進行は福島先生（同窓会 幹事長）であった。有志からは様々な話が出たが、共通しているのは「人との繋がりを大切に」。学生からは、「勇気をいただいた」「就活の参考になった」といった感想が寄せられた。

これらの詳細については、支部 HP に掲載している。<http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/archive2.html>

第24回関東支部「総会」は、令和3年11月13日（土）14:00～17:40に開催した。参加者33名（掲載の集合写真はその内の28名）。特別参加として、全学同窓会関東支部 岸事務局長、片岡顧問、佐久間会計幹事並びに學士會 薄井広報渉外課長を得た。本部役員有志、関西支部会員の方々の参加も得ることができた。

総会議事の部では、小職が支部現況報告、若松監査役が会計監査報告、次いで福島先生に同窓会の一般社団法人化についてお話しいただいた後、新役員の選出

となった。特別講演の部では、小西副支部長の司会進行で、作物ストレス制御研究室の山内 章 教授（S62 農 D）に、「気候変動下におけるアジア・アフリカの米増産への挑戦」について、NPO 法人自然環境観察会代表理事の平井一男さん（S48農 M）に、「緑のオアシスづくり」について、それぞれお話を伺った。

新役員選出では、現執行部の再任と若松監査役退任に伴う横井幹事の新監査役就任が承認された。同窓会の一社化については、本報別稿をご参照いただきたい。

山内先生の講演は、学院長をされている「アジアサテライトキャンパス学院」の紹介から始まった。国立大学で唯一海外キャンパス（現在6ヶ国）を持っていて、農学部が事業を牽引しているとのことであった。

本題は、世界の食料需給の逼迫から始まり、わが国は食料生産に適した国なのに作ろうとしない、各国は食料自給率を高める方向だが、わが国はそうならないと警鐘を鳴らし、1940年代～60年代、コムギによってなされた「緑の革命」に次ぐ、コメによる「第二の緑の革命」の必要性が強調された。

次いで、ケニア、タイ、日本（愛知県）など、世界のイネ栽培について説明、特にケニアでは、乾燥や冷害に強い品種の開発が喫緊の課題であるということで、先生がリーダーを務められた「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」(名古屋大学農学国際教育研究センター) について話された。耐冷性遺伝子を持った寒さに強いイネの開発を目標に、QTL（量的形質遺伝子座）により目的とする遺伝子候補を見だし、交配による新品種作出が短時間でできた。新品種のコメは、現地の農家に使ってもらうべく、品種登録をケニア政府に働きかけているとのこと。

質疑応答では、「緑の革命」の問題点と「第二の緑の革命」によるその克服、現地の事情に応じた技術開発、食料自給率向上、食料の生産・流通・消費・廃棄の全体プロセスの中での検討、農学の人材育成などについて様々な議論がなされた。「農学は平和の学問」との先生の主張を仕事の励ましにしたいとの声も出た。



平井さんの講演では、NPO 法人設立の経緯から始まり、埼玉県東部の台地を対象に行っている、①生態補償地の保全・調査、②生態圏の月例調査、③子ども自然観察会などの事業について説明。コロナ禍でもあり、オンライン観察会も行っているとのことである。

上記①及び②の調査を基に、保全したい昆虫約30種と蜜源植物の選定を行っているとのこと、例として、テントウムシ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハについて具体的な説明があった。特にジャコウアゲハは保全候補種ということで、その生活環、越冬態、食用植物(ウマノスズクサ)の保全について詳細に説明し、最後に、生態補償地で保全したい生き物候補50種が示された。県からは、外来種は不可、有害生物は発生させない、昆虫の食用植物も繁殖力が旺盛なものは不可などの制限があるとのことであった。

質疑応答では、NPO 法人設立の意味、農村での「緑のオアシス」の受容などについて議論がなされた。平井さんによれば、かつて農村にあった溜池は埋められてしまったが、これを復活させれば「緑のオアシス」になり、生物の多様性も復活するとのことであった。

次いで参加者の懇親を図るべく、近藤幹事の司会進行で自己紹介のコーナーに入った。大学の時代の懐古、携わってきた仕事、現在の仕事や関心事、他の参加者との思わぬ関係などを話しつつ楽しい時間を過ごした。

その後、横井幹事の進行で、学生歌「若き我等」を斉唱、スクリーンショットで記念写真を撮影し、牧田幹事による締め挨拶と“一本締め”で閉会となった。

なお今回の二つの講演については、その抄録を學士會の総合情報誌『NU7』2022.7 No.42に掲載、3年生以上の全学生と全教職員に配布の予定である。

次回新卒者歓迎会については本年6月18日(土)に、また第25回総会については11月12日(土)に、それぞれ學士會館で開催の予定である。

支部 HP : <http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>
支部連絡先 E-mail : alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学農学部同窓会関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎 (S45農 M)

長引くコロナ禍のため、毎年11月に開催する総会は、本年度も中止せざるを得ませんでした。同窓会活動の発展には厳しい状況にあります。電子メール等を活用して、同窓会の維持・発展の道を模索しております。例えば、支部の同窓会報を会員の皆様からの寄稿文をもとに、本年からメール配信することを計画しております。

さて、この度の支部だよりでも、昨年同様、会員の皆様のコロナ禍での近況をお伝えいたしたく思います。(以下、事務局への原稿到着順に記載します)

○定年退職以降、彦根城や佐和山城址のボランティアガイドを続けています。コロナ禍のためガイド機会は少ないですが、この機会を活用して、ガイド内容を充実させるための英語の月例勉強会を開いています。また、ガイド機会が減ったり、長年一緒に散歩をしていた愛犬が逝ってしまったりして、運動不足ぎみのため、ジムに通うようになりました。自治会活動も4年続けていますが、ここ2年は、殆どの行事が中止になりました。2022年は、徐々に復活させていきたいと願っています。

早田孝司 (S56林産 M)

○2021年4月に、40年近く務めた会社を退職しました。自由になったらこれまでできなかったぶらり旅行をしたいと思っていたのですが、世界中コロナ禍でどこにも行けません。とりあえず1年ほどはゆっくりしようと思われ、体のあちこちのガタの手入れ、これまできちんと読まずに置いたままだった本の完読、軽い運動としてのゴルフ、家や庭の整備などをしながら毎日過ごしています。コロナが収まったら、呆ける前に本格稼働します。

駒田 肇 (S55林産 D)

○コロナ禍フレイル予防のため、一日一万歩を目標に近隣を散歩しています。ここ JR 六甲駅周辺は阪神淡路大震災で甚大な被害を受けましたが、今はそのことを全く感じさせない街並みです。しかし、表通りをはずれて住宅地の小道に入ると、草ボウボウの空き地がいまだにいくつも残っています。震災から四半世紀経ってもこの状況、自然災害、パンデミック等の大規模災害に対してどのようにすべきか考えさせられる今日この頃です。

馬路泰蔵 (S41農化)

○自分では大丈夫と思っていても体は正直に痛んできますね。現在は病院通いをしながら普通に生活しています。若干収まってきましたが、コロナ禍でいまだに世界中が大変な状況です。千葉に住む孫に2年ほど会えなかったのですが、制限が緩和された10月に2年ぶりに会ってきました。ラインでは時々話していましたが、会ってみると実際の成長がよくわかり、直接会うことの重要性がよくわかりました。また、ズームを使った会議、講義や講演会も経験しましたが、講義はやはり、雰囲気は相互に十分伝わった感じがしませんでした。次世代を育てるという意味でも直接顔を向き合わせる必要を感じています。日頃は一坪農園を楽しんでいます。昨年収穫できたのに今年はダメという場合がよくあります。もちろん連作障害には気を配っていますがそれだけでもなさそうですが、一坪でするので隔年でしか実験もできません。それも楽しみです。

林 和男 (S47林産 M)

○公益財団法人櫻谷文庫の管理運営に携わっています。櫻谷文庫は曾祖父で日本画家の木島櫻谷の居宅

（京都市指定有形文化財）と遺作、画材、写生帖、習作や書簡類、櫻谷の収集したコレクション類の調査、保存、公開を行っています、2013年に公益認定法に基づく公益法人への移行を行い8年目になります。建物は築108年となり劣化修復が喫緊の課題となっています。

門田 理（S51林産 M）

○明けましておめでとうございます。昨年暮れ家内と神戸からフェリーに乗船し、瀬戸内海の初日の出で明けた新年を、大分の宇佐神宮への初もうでで祝いました。船上での食事はマスク手袋着用で食事を取り分け、アクリル板で隔離された空間で食べる物々しいものでしたが、久しぶりの船旅を楽しむことができました。神社では今年こそコロナが収まってくれることをお祈りしてきました。数えで傘寿を迎えましたがお陰様で元気にしています。

野村 章（S45農 D）

○自宅の小さな庭でブドウを栽培しています。巨峰やロザリオピアンコなどの大粒品種を、病害虫の防除や、種無しブドウにするためのシジベレリン処理などをして、大切に育てています。4～5年前から、収穫時になると夜中に食べられてしまう被害を受け、がっかりしていましたが、ついに犯人がわかりました。アライグマだったんです。西宮市の農政課に相談したところ、捕獲ケージを貸してくれ、2頭捕獲しました。早速、市の職員が処分をしてくれました。自宅は市街地にありますが、野生動物が増えている現状を実感しました。

加藤壽郎（S45農 M）



（事務局）寺前 朋浩（S61 生 M）

〒669-1103 兵庫県西宮市生瀬東町37-23

E-mail : rikamoto@ares.eonet.ne.jp

名大遠州会だより

佐々木 健（H5畜）

名大遠州会は、静岡県西部（大井川以西）に居住または勤務する名古屋大学、大学院またはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。しかしながら、令和3年度も昨年度と同様にコロナ禍の影響

により残念ながら開催中止となってしまいました。この原稿を書いているのが、令和4年の1月中旬ですので、もうかれこれ2年近く名大遠州会がストップしてしまっている状況で、私自身も寂しい限りです。本同窓会のことを忘れないためにも、例年の内容を簡単に書きますと、毎年6月の第二土曜日に70～80名前後の会員が集まり、名古屋大学総長や全学同窓会副会長も来賓としてお招きして90分ほどの同窓会（懇親会）を開催しております。この会では、ビンゴゲームやミニコンサートも盛り込んでおり参加者全員が楽しめる企画になっています。令和4年度こそは開催できると信じております。遠州会会員の皆様には案内状の郵送にてお知らせする予定ですので、何卒よろしくお願いたします。また、遠州地区にお住いでこのセコイア通信をお読みの方（名古屋大学農学部や大学院生命農学研究科の卒業生）で、本「遠州会」にご興味をお持ちの方は、当方にメール等でご連絡くださればご案内いたします。

さて、本年も同窓会に関して記載する内容が少ないので、ここからは私佐々木が例年同様に誌面を埋めるために、今年は静岡県についての紹介文？いや雑感？？を書いてみようと思います。

まず、「静岡は横に長い！」です。高速道路等を利用すると静岡県内の通過時間が異常に長く感じますが、これは静岡県の横断距離のとても長いためです。私は広島県を通過した時もかなり長いと感じましたが（岡山県境から山口県境まで約140km）、静岡県は愛知県境から神奈川県境まで約200kmで、さらに長いわけです。そして、その象徴として、なんと静岡県内には新幹線の駅が6つ（浜松、掛川、静岡、新富士、三島、熱海）もあります（広島県は5つ）。愛知県は3つ（名古屋、三河安城、豊橋）しかないのにその2倍って！、どんな政治力が働いたんだろう…と思わず邪推してしまいそうです。

次に、「風が強い！」です（特に西部地域の話）。名古屋大学のある尾張地区といえば、旧制八高の寮歌にもなっている「伊吹おろし」ですが、失礼を承知で申しますとあれは「子供用」です。こちらでは冬場の強風を「遠州からっ風」と言われますが、最大瞬間風速が10mを超える日が半分～2/3を占め、「大人用」どころか大人でもたいへんです。また、こちらで有名な浜松まつりの目玉行事には凧揚げ合戦がありますが、凧を揚げたくなる気持ちがよく分かりました。あれだけの風であれば凧もよく上がるはずですよ。

そして最後は、「今川義元は英雄！」ということですよ（特に中部地区）。他県の人からすると、今川義元は桶狭間の戦いで油断して織田信長に足元をすくわれ、あっけなく敗れてしまったという印象が強いと思います。しかしながら、静岡県内の地元スーパーのテレビCMでは、現代に復活した今川義元、通称「今川さん」が、そのスーパーで働きあつという間に店長になるという設定のCMが流れているほどです。そ



浜松まつり凧揚げ合戦のようす
自治会対抗で糸切り合戦もあるそうです



楊齋延一作 錦絵 桶狭間今川義元血戦

ここでいろいろ調べてみると、法と流通を駆使した領国統治に加えて、周辺国との巧みな同盟政策や三河への支配地域の拡張など、その政治手腕は高く評価されているようで、ちょっと納得してしまいました。

以上、かなりの駄文になってしまって申し訳ありません。これをお読みの皆様、今後ともこの遠州会を何卒よろしく願いいたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木健
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1
浜松医科大学 器官組織解剖学講座
Tel：053-435-2293 Fax：053-435-2290
Email：tsasaki@hama-med.ac.jp

農学部談話会から

第50回農学部談話会例会は2018年11月9日、第51回談話会例会はホームカミング・デーの2019年10月19日に同窓会行事に参加する形で開催しました。2019年に開催した研究科長との懇談で、年3回の例会から5月（研究科長など執行部との懇談会）と10月（同窓会行事に賛同する形での行事）の年2回を定例にすることしました。ところが新型コロナウイルスの蔓延で、2年以上も開催を見合わせてきたところです。2022年の5月には（感染症の終息が前提ですが）懇談を中心とした例会を実現させたいと考えているところです。

談話会は平成14（2002）年10月11日に設立され、構成員は農学部を退職した教職員（有志）となっています。主に E-mail アドレスで案内を送っていますが、

宛先不明で返ってくるケースが増えています。退職後のアドレスを農学部庶務掛又は談話会世話人までお知らせ下さい。また世話人を引き受けて頂ける方の自薦他薦も募っています。

（文責 世話人・織田 oda_senichi@yahoo.co.jp）

Covid-19禍に耐えて

杉山 達夫

農学部を定年で退職してから間もなく22年となります。その後、理研植物科学研究センター、中部大学生命健康科学部に奉職いたしました。2014年には中部大学も退職し、翌年には妻を亡くして長年住み慣れた日進市を離れ、旧職場の近く横浜に居を移しました。目下、同じ市内にあるいわゆるサービス付き高齢者住居に身を寄せています。

横浜に転居してからは大学や市民対象に講義や講演をするのを楽しみにしていましたが、今から4年前に喉頭癌を患い、声帯を除去しましたので声を失いました。以来、公職をすべて辞し、サイエンスからも離れています。現役時の研究との僅かな繋がりは、残念ながら国の内外の親しかった研究者の追悼文を雑誌や学会通信に依頼を受け寄稿している昨今です。大学の教育・研究にも、個人の生活にも Covid-19ウイルスの鎮静を願わずにはいられません。

不思議な事

柳沼 利信（養蚕学・資源昆虫学出身）

定年退職の際、研究室の整理をしていて、図書館から長期貸出しになっている「蚕種論」（丸山舎刊）を見つけた。外山亀太郎が1909（明治42）年に出版した本で、胚発生関係者にとってはバイブルのようなものである。この本は元々東京大学所有だったようで、戦後名古屋大学に農学部が設立された折に、ここの図書館に配置換えされたようである。その過程は裏表紙に押された印で判断できる。名大農学部図書2階にあったが、整理整頓のため古川図書館に移動、その場所が名大博物館になるに及んで他に移されるということで、研究室に長期貸出しにして頂いた経緯がある。

この本には当時の東大農学部農学科の学生さん達が亡き親友を偲んで購入し、東大の図書館に寄贈した謂われが書かれている。その親友の在学時代の写真も添えられている。

『小野弘吉君、盛岡の人、東北の農業事情の調査に出かけ、志半ばにして病魔に犯され、非業の死を遂げた。その友人の記念に』とある。

すこし気になる名前に思われたので、検索したところ、盛岡中学で石川啄木と同期とある。

『我に似し友の二人よ 一人は死に 一人は牢を出でて今病む』と歌われた、その人である。

奇しくも、2016年2月に新潮社から発刊の「石川啄

木」[ドナルド・キーン著（角地幸男訳）]の第一章に、啄木を現代歌人とする所以として、この短歌をドナルド・キーンは引用している。

後期高齢者に仲間入りしました

織田 統一

名古屋大学を2010年に退職してから12年になった。この間に岡山理科大学の学科創設に協力し、単身赴任5年を経験した。大学を退職した時、収集・蓄積してきた畜産動物、実験動物、野生動物などの資料類（哺乳類骨格や剥製標本、実験で得たデータや野外調査記録、捕獲機器、卒業生の残渣物）や書籍・文献類の保管場所がなくなった。国立科学博物館、名古屋大学博物館、愛知学院大学などに納めてもらったものもあるが、残ったものは築40年の民家を購入し収容先とした。

家人は巨大ゴミ箱と呼ぶが、自己満足と道楽の結果である。この資料館と称している建物で2021年末にハイブリッド型の研究会を久しぶりに開催し、また自宅で卒業生等と夕食懇談会を楽しんだ。在職時代から愛知県環境審議会委員、その下部組織である自然環境保全部会の座長など幾つかの委員会等に関わったが、現在は愛知県特定鳥獣保護管理検討会の座長など公的な役目はわずかになった。私的には45年の在籍・最古参になった学区内のソフトボールクラブや最近になって加入した卓球クラブで週1回汗を流し、小さな庭の野菜作りも趣味としている。社会的、経済的、政治的、学術的アクティビティはめっきり減り、外出そのものが億劫になってきたが、過去未来を自省・夢想する隠遁生活（誘惑）に埋没しないよう努力しているところである。



農学部の話題 —2021.1.1-2021.12.31—

- ・広域で製糖期待 未受精イネ「甘い粒」 笠原教授と名大チーム発見 2021.1.14毎日新聞
- ・日本酒探：仕込みの仕上げ 留添え 名大ブランド「なごみ桜」 2021.1.16読売新聞
- ・マタタビ反応で蚊除け 岩手大、ネコの行動解明 2021.1.21日刊工業
- ・マタタビ愛 謎解明 寄生虫など媒介の大敵 蚊よけに効果 2021.1.21中日新聞
- ・「ネコにマタタビ」実は蚊よけ 名古屋大など研究 陶酔状態との関連は謎 2021.1.21朝日新聞
- ・猫の習性 岩手大解明 マタタビは蚊よけ 2021.1.21毎日新聞
- ・第3の生命暗号 名大・岐阜大の糖鎖研究 細胞の連携助ける「糖鎖」感染症、がん解明に新たな視点 明確なルールなくまだまだ謎多い 2021.4.19中日新聞
- ・倒れた原因 小さな根本 瑞浪の大杉、名大など発表 2021.9.27中日新聞
- ・倒れた巨大杉 根が小さかった 3次元デジタル化でくっきり 2021.9.27朝日新聞
- ・ゲノム編集 甘いトマト 糖度3割増 名大などチーム開発 2021.11.11読売新聞
- ・ゲノム編集活用 トマト糖度高く 名古屋大・神戸大 大きさ変えず3割増し 2021.11.10日本経済
- ・糖鎖の全容解明へ連携 東海国立大機構など3者覚書 2021.11.12中日新聞
- ・東海国立大学機構 自然科学研究機構、創価大と「糖鎖」研究連携で覚え書き 2021.11.13毎日新聞
- ・コウモリにウイルス抵抗性 名古屋大研究チーム 宿主となる原因か 2021.11.17中部経済
- ・トマト3割甘く 大きさそのまま 名大チームがゲノム編集 2021.11.19中日新聞
- ・糖鎖解析プロジェクト実施へ 解析難しいフロンティア 日本の強み活かし基盤構築 2021.11.19科学新聞
- ・岐阜大学に新研究施設 「糖鎖」を可視化、機能分析 2021.12.3日本経済
- ・糖鎖の共同研究 加速 東海国立大学機構がシンポジウム 2021.12.7読売新聞
- ・「糖鎖」テーマ 名古屋大学でシンポジウム 2021.12.7中日新聞
- ・生き抜くからくり① 母親の体に「抗菌薬」—メキシコの魚グーデア— 2021.12.11日本経済
- ・「発光生物が光る謎」へご招待 大場裕一中部大学教授が出版 下村侑名古屋大学特別教授 2021.12.21中日新聞

同総会寄付者一覧

(2021.2.1～2022.1.31)

本年度、農学部同総会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青山 幸弘	浅井 裕美	旭 正	安藤 友三	飯田 貴大
池田 裕月	井戸 大也	伊藤 憲一	伊奈 由光	井上 忠彦
梅村(永津)武夫	榎本 康	大根 保則	岡田 実憲	岡田 悌之
春日井 治	可児 充夫	川端 史郎	菊本 敏雄	木村 恭文
栗本 重夫	小粥 愛美	小林 一清	近藤 克成	榊原 雅史
佐藤 隆英	塩澤 裕志	柴田 邦善	清水 仁志	正田 誠
白井 朋香	新海 義秋	鈴木 崇弘	鈴木 奏仁	舘本 勲武
田中 駿平	多和田悦嗣	筒木(藤井)和美	戸田 至映	豊島 義之
中江 義一	中林 将宏	中村 友輔	中村 礼博	中元 萌香
成瀬 和也	野々山芳夫	長谷川規隆	長谷川靖彦	長谷川洋吉
林 和男	林 和也	坂野 大義	日比野浩二	福井 敏夫
福本(丸山)圭子	古田 隆則	細井(井上)力	前田 和彦	牧野 郁雄
正木(久永)紀子	松鹿 昭則	松田 寛	松本(金田)和子	三浦 宣安
水野 修一	武藤 大地	村越有里子	柳沢(斉藤)博史	山本 義典
吉田 重方	渡辺 広次	他 匿名2名		

以上、74名の皆様

全学同窓会だより

名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げる必要があります。全学同窓会は、部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供し、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を発信しています。現在、農学部からも2名の全学同窓会幹事（福島和彦、木場隆敏）が参画しています。全学同窓会は、2021年度、以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1) 同窓生名簿の整備

全学同窓会が確認した異動情報を大学に提供し、「卒業生等名簿管理システム」への入力を支援した。住所等異動データを大学と協力して整備し、部局同窓会に提供した。

2) 財政基盤整備

支援会員に幹事会議事録を送付した。また、支援会費、寄附金のお願いを配付し、支援を呼びかけた。次に、情報発信封入物に「同窓会カード入会案内」を掲載し、入会を呼びかけた。卒業式当日には、全卒業・修了生に「カード入会案内」を配付し、入会を呼びかけた。さらに、「活動協力金のお願い」を入学手続き時に配付し、保護者に支援をお願いした。

3) 拠点形成

関東支部、遠州会、関西支部及び岐阜支部の総会、講演会等は新型コロナウイルス感染症の影響で見送りとなった。海外支部への財政的支援(支部費)を行った。各海外支部と連携をはかり、名古屋大学国際交流貢献顕彰受賞候補者を推薦した。オンライン開催となった

名古屋大学ホームカミングデイの一企画として実施した全学同窓会ウズベキスタン支部と名古屋大学総長等とのオンライン対談を支援した。

4) 全学同窓会活動の運営基盤整備

評議員会において、11月1日付けで木村彰吾氏の代表幹事就任が承認された。

部局同窓会との連携強化として、令和3年7月3日(土)に第4回名古屋大学同窓会サミットをオンラインで開催した。令和4年2月4日(金)に、学士会と共催して、森健策氏による講演会を実施した(オンライン開催、313名参加)。

5) 学生支援

新型コロナウイルス感染症の影響で名大祭がオンライン開催となったことから、例年行っているパンフレットへの広告掲載は実施しなかった。卒業生が講師を務める全学教養科目「キャリア形成論」に50万円を支援した。

6) 大学支援

名古屋大学が立ち上げた名古屋大学基金特定基金「With コロナでのキャンパスライフ応援事業」へ50万円を寄附した。ホームカミングデイ開催に合わせ、各部局が同窓会関連行事を開催した。

7) 広報活動

大学と連携し、7月末に全会員に情報(Newsletter、支援会費のお願い、カード入会案内)を発信した。発送代として300万円を寄附した。Newsletter No. 36(令和3年10月)、Newsletter No.37(令和4年3月)を発行した。また、名古屋大学メールマガジンを利用して、全学同窓会行事開催等の案内を発信した。

新同窓会（一般社団法人）への会員移行について

名古屋大学農学部同窓会理事会では、本会が「社会連携や寄付金活動」をより活発に行うため、当会を一般社団法人化すべく検討および定款作成を進めてまいりました。これに関しまして2021年10月16日の総会で皆様にご審議いただき、下記のことが議決されました。

組織を一般社団法人とする旨の決議

1. 現行組織を2022年8月31日をもって解散（活動を停止）し、同年9月1日に事業・財産・会員をすべて新法人に移す旨の決議
(会員は2022年9月1日から2022年の総会まで、新法人・現行組織の両方に所属するものとする)
2. 任意団体の会員は2022年4月30日までに入会しないとの通知がない時は、一般社団法人に入会したものとする旨の決議
3. 現在の評議員を新法人の代議員とすることの承認と新代議員の条件付き就任承諾
4. 定款案の承認

現行組織の解散に関する決議

1. 2022年4月から2022年8月までの決算と事業報告については、特例的に2022年10月の総会において審議することの承認
2. 2022年4-8月事業案の承認
3. 2022年4-8月予算案の承認

この議決を受け、新たに一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会が設立されました（2021年12月21日定款認証、2022年1月14日設立登記）。現行の同窓会の事業・財産・会員は2022年9月1日をもってすべて一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に移行されます。なお会員の皆様は2022年9月1日をもって自動で一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に移行されますが、新組織への移行をご希望でない場合は以下要領でご連絡をお願い申し上げます【2022年4月30日必着】。なお、新組織移行後も会費要領に変更はございません。詳しくは定款（2021年12月21日定款認証済み）および会費規則をご覧ください。

メールでのご連絡の場合

タイトル：名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会退会届【氏名】

(本文には以下情報をご教示ください)

- ・(ご存知の場合) 会員番号
- ・氏名 (旧姓を含む)
- ・卒業年月と学科 (専攻)
- ・メールアドレス

【メール宛先】

dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

お手紙でのご連絡の場合

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会退会届とご記入ください。

(本文には以下情報をご教示ください)

- ・(ご存知の場合) 会員番号
- ・氏名 (旧姓を含む)
- ・卒業年月と学科 (専攻)
- ・メールアドレス

【宛先】

〒464-8601

名古屋市千種区不老町名古屋大学農学部同窓会

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会会費規則

第1条（目的）

この規則は、この法人の定款第8条の規定に基づき、会員が支払う会費等に関する必要事項を定める。

第2条（会費）

会員は、定款第6条に定める種別に従って次の会費を納めなければならない。会費には会誌の購読料が含まれるものとする。

- （1） 正会員 永久会員会費2万円
ただし平成11年度以前に卒業の正会員は5年ごとに5000円
（平成11年度以前卒業の正会員も永久会員会費2万円を支払うこと
で永久会員とする）
- （2） 学生会員 永久会員会費2万円
ただしいったん永久会員となった場合、卒業後そのまま正会員（永久
会員）に移行する。
- （3） 特別会員・・・会費徴収なし
- （4） 名誉会員・・・会費徴収なし
- （5） 特例会員・・・会費徴収なし

第3条（規則の変更）

この規則は、社員総会の議決によって変更することができる。

附則

- 1 この規則は、この法人の設立日から施行する。

定款

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会

令和3年10月16日作成

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会定款

第1章 総 則

(名称)

第1条 当法人は、一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会と称する。

(主たる事務所)

第2条 当法人は、主たる事務所を愛知県名古屋市に置く。

2 当法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に置くことができる。

これを変更または廃止する場合も同様とする。

(目的)

第3条 当法人は、会員相互の親睦連絡を図り、あわせて名古屋大学農学部・名古屋大学大学院生命農学研究科の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 当法人は、前条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦、交流をはかる場所や機会の提供
- (2) 会員録等の整備
- (3) 名古屋大学農学部・名古屋大学大学院生命農学研究科における学術研究の助成、奨学
- (4) 会報その他出版物の発行
- (5) その他、当法人の目的を達成するに必要な事業

(公告)

第5条 当法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第2章 会員及び代議員

(会員)

第6条 当法人は会員を次の5種類とする。

- (1) 正会員：名古屋大学農学部卒業生、名古屋大学大学院生命農学研究科（旧農学研究科）の博士課程前期課程（旧修士課程）修了者及び同博士課程後期課程修了者並びに満期退学者
- (2) 学生会員：名古屋大学農学部及び同大学院生命農学研究科（旧農学研究科）に在籍の学生
- (3) 特別会員：名古屋大学大学院生命農学研究科及び関連センターの教員
- (4) 名誉会員：当法人の特に推薦した者（但し、1号と重複する者は1号を優先する）
- (5) 特例会員：その他、理事会で定める所定の手続きを経た者

(入会)

第7条 前条1号ないし3号に掲げる資格を有する者は、当法人所定の様式による申込みをし、代表理事の承認があったときに正会員、学生会員又は特別会員となる。

- 2 前条4号に該当する者、またはその他入会を希望する者は、理事会で定める所定の手続きを経て前条第5号の会員となることができる。

(会費)

第8条 正会員および学生会員は、総会により定める会費規定に基づき会費を納入する義務を負う。

- 2 総会により定める会費規定に定められた永年会費を納入した正会員および学生会員は、永年会員とする。

(除名)

第9条 当法人の会員が、次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の特別決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) 当法人の定款その他の規則に違反したとき
- (2) 当法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき

(会員の地位の喪失)

第10条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 会員が死亡し、若しくは失踪宣告を受けたとき
- (2) 除名されたとき
- (3) 総社員の同意があったとき

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

第11条 会員が前条の規定によりその資格を喪失したときは、当法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

- 2 当法人は、会員がその資格を喪失しても既納の会費その他の拠出金品は、これを返還しない。

(代議員)

第12条 正会員の中からおおむね各卒業年度の各学科又は各専攻につき1名の割合で会員の代議員選挙により代議員を選出し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）に規定する社員とする。

- 2 代議員選挙の方法は、総会の承認を得て別に定める規則の定めるところによるものとする。
- 3 代議員の任期は、選任後2年以内実施される代議員選挙の終了後、次の代議員が就任する時までとする。ただし再任は妨げない。
- 4 欠員が生じ、補欠のために選出された代議員の任期は、前任者の残存期間と同一とする。

(代議員の職務)

第13条 代議員は総会に参加し、総会の議決を行う。

(辞任)

第14条 代議員は、理事会で定める所定の手続きを経て辞任することができる。ただし、辞任後においても後任者が選出されるまではその職務を行わなければならない。

(解任)

第15条 代議員が当法人の名誉を傷つけ、又は代議員としての義務を怠り、若しくは第3条の目的に反する行為をしたときは、総会の決議を経て、その代議員を解任することができる。

(代議員の地位の喪失)

第16条 前2条の場合のほか、代議員は次の事由によって、その地位を喪失する。

- (1) 会員の地位を喪失したとき
- (2) 総代議員が同意したとき

(会員の権利)

第17条 代議員でない会員は、法人法に規定された次に掲げる代議員の権利を、代議員と同様に当法人に対して行使することができる。

- (1) 法人法第14条第2項に定める権利（定款の閲覧等）
- (2) 法人法第32条第2項に定める権利（社員名簿の閲覧等）
- (3) 法人法第50条第6項に定める権利（社員の代理権証明書の閲覧等）
- (4) 法人法第51条4項及び第52条第5項に定める権利（議決権行使記録の閲覧等）
- (5) 法人法第57条第4項に定める権利（総会の議事録の閲覧等）
- (6) 法人法第129条第3項に定める権利（計算書類等の閲覧等）
- (7) 法人法第229条第2項に定める権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）
- (8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項に定める権利（合併契約等の閲覧等）

第3章 総会

（構成）

第18条 総会は、すべての代議員をもって構成する。

2 前項の総会をもって、法人法上の社員総会とする。

（総会の権限）

第19条 総会は、次の事項について決議する。

- （1）定款の変更
- （2）役員を選任及び解任
- （3）理事及び監事の報酬等の総額並びにその支給の基準
- （4）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- （5）入会費の金額、及び会費の徴収方法
- （6）解散及び残余財産の処分
- （7）会員の除名
- （8）その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第20条 当法人の総会は、定時社員総会及び臨時社員総会とし、定時社員総会は、毎事業年度の終了後3か月以内に開催し、臨時社員総会は必要に応じて開催する。

（招集）

第21条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 総代議員の議決権の10分の1以上を有する代議員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。
- 3 前項の規定による請求があったときは、会長はその請求のあった日から6週間以内に臨時社員総会を招集しなければならない。

- 4 総会の招集通知は、総会の日時、場所、目的である事項その他法令で定められた事項を記載した書面により、会日より2週間前までに各代議員に対して発する。
- 5 前項の通知に代えて、法令で定めるところにより、代議員の承諾を得て、電磁的方法により通知を発することができる。

(議長)

第22条 総会の議長は、会長が行う。ただし、会長に事故若しくは支障があるときは、当該総会で議長を選出する。

(決議の方法)

第23条 総会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、出席代議員の議決権の過半数をもってこれを行う。

- 2 総会に出席できない代議員は、あらかじめ通知された事項について、書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の代議員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した代議員は、前項の規定の適用については出席したものとみなす。
- 4 理事又は会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、代議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(議決権)

第24条 総会における議決権は、代議員1名につき1個とする。

(議事録)

第25条 総会の議事については、法令の定めるところにより議事録を作成し、総会の日から10年間主たる事務所に備え置く。

- 2 議事録は、議長及び出席した理事2名が記名押印する。

第4章 役員

(員数)

第26条 当法人に次の役員を置く。

(1) 理事4名以上

(2) 監事2名以上

(3) 幹事2名以上

2 会長が必要と認めた場合は顧問を置くことができる。

3 名古屋大学大学院生命農学研究科長をその在職中、名誉会長とする。名誉会長は、理事定数の枠外とする。

(役員を選任)

第27条 理事は会員の中から、総会の決議により選任する。

2 監事は会員の中から、総会の決議により選任する。

3 会長1名及び副会長1名を置き、理事会の決議によって理事の中から選定する。会長は法人法に規定する代表理事とする。

4 理事、監事は、相互にこれを兼ねることはできない。

5 理事について、理事及びその配偶者又は三親等以内の親族その他の特殊の関係にある者である理事の合計数が理事の総数の3分の1以下であることを要する。

(理事の職務権限)

第28条 理事は理事会を構成し、この定款に定めるところにより、当法人の業務を執行する。

2 会長は、当法人を代表し、その業務を執行し、副会長は会長を補佐する。会長に事故若しくは支障等の生じた場合は、副会長が会長の職務を代行する。

3 会長及び副会長は、毎事業年度毎に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務権限)

第29条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、当法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(任期)

第30条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

- 2 補欠により選任された役員の任期は、前任者の残存期間と同一とする。
- 3 理事及び監事は、辞任又は任期満了後において、定員を欠くに至った場合には、新たに選任された者が就任するまでは、その職務を行う権利義務を有する。
- 4 理事又は監事が疾病等の事由により職務執行に堪えないと認められるとき、または職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったときは、総会の決議によりこれを解任することができる。

(取引の制限)

第31条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合には、理事会において、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 自己又は第三者のためにする当法人の事業の部類に属する取引
- (2) 自己又は第三者のためにする当法人との取引
- (3) 当法人がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における当法人とその理事との利益が相反する取引

第5章 理事会

(構成)

第32条 当法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権限）

第33条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

- (1) 当法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長の選定及び解職
- (4) 規則の制定、変更及び廃止

（招集）

第34条 理事会は会長がこれを招集し、主宰する。

- 2 理事の過半数より目的事項とその理由を示して開催の請求のあった場合、会長はその請求のあった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする臨時理事会の招集通知を発しなければならない。
- 3 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 4 理事会を招集するときは、開催日の5日前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。
- 5 理事及び監事全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく理事会を開催することができる。

（決議）

第35条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき、議決に加わることができる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が当該提案について異議を述べたときは、その限りでない。
- 3 理事は、テレビ会議、電話会議またはインターネットを介した会議方式（以下

「テレビ会議等」という。)を利用して、理事会の審理及び決議に参加することができる。

(議事録)

第36条 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

2 出席した代表理事たる会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

(理事会規則)

第37条 理事会に関する事項は、法令又はこの定款に定めるもののほか、理事会において定める規則による。

第6章 幹事会及び事務局

(幹事会の設置)

第38条 当法人の事業を実施し実務を処理するため幹事会を設置する。

2 幹事会の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

(事務局の設置)

第39条 当法人の幹事会による実務の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第7章 委員会

(委員会の設置)

第40条 当法人は、理事会の決議により委員会を設置することができる。

2 委員会の運営に関し必要な事項は、理事会が別に定める。

第 8 章 資産および会計

(事業年度)

第 4 1 条 当法人の事業年度は、毎年 9 月 1 日から翌年 8 月 3 1 日までの年 1 期とする。

(事業計画及び収支予算)

第 4 2 条 当法人の事業計画及び収支予算については、毎事業年度開始日の前日までに会長が作成し、理事会の決議を経て、直近の総会に諮りその承認を受けなければならない。

- 2 総会で承認された予算に基づく支出は、会長の決裁を経て処理される。
- 3 経常費用は、総会の議決前においても前項と同じ手続きを経て支出できる。但し、次の定期総会において承認を得なければならない。
- 4 予算に記載がなく、当法人の存続、あるいは運営に必要かくべからざる支出の必要が生じた場合、会長は理事会の承認を得て、その支出を決済できる。但し、次の定時総会において承認を受けなければならない。

(事業報告及び決算)

第 4 3 条 当法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、第 1 号、第 3 号及び第 4 号の書類については、理事会の承認を経て、定時総会に報告し、承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 第 1 項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に 5 年間備え置くとともに、定款及び社員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

(1) 監査報告

(資産および会計の定め)

第44条 当法人の資産及び会計に関して必要な事項は、理事会の決議により別に定める規則によるものとする。

(剰余金の不分配)

第45条 当法人は、剰余金の分配はしないものとする。

第9章 基金

(基金を引き受ける者の募集)

第46条 当法人は、基金を引き受ける者を募集することができる。

(基金の拠出者の権利に関する規定)

第47条 基金は、当法人が解散するときまで返還しないものとする。

(基金の返還手続)

第48条 基金の返還は、定時総会において返還すべき基金の総額について決議を経た後、理事会が決定したところに従ってする。

第10章 定款変更および解散

(定款の変更)

第49条 この定款は、総会の特別決議によって変更することができる。

(解散)

第50条 当法人は総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第51条 当法人が清算をする場合において残余財産があるときは、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与する。

第11章 補則

(理事会への委任)

第52条 この定款に定めるもののほか、本法人の運営に必要な事項は、法令に従って理事会が別に定める。

(法令の準拠)

第53条 本定款に定めのない事項は、すべて法人法その他の法令に従う。

事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えして参りたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

天然と合成を融合して
地球に優しい
健康美と機能美を創造する
研究開発型
化学品メーカー



株式会社 岐阜セラツク製造所

TEL:058-272-0831 FAX:058-272-0704

千年少年
Sennen Shonen

1000年先の地球と語り合う、少年のような視点と、純粋な心。

地球という大きな星が与えてくれた
シンプルでピュアな贈物、
それは記憶の中の少年の目と
心にくっきりと映っている。
一杯の水、大地の実り、雨の恵みや、木の木陰・・・
地球がくれるシンプルな贈物について、
私たちは真面目に考えたいと思う。
壮大なプロジェクトの中に、高度な技術の結晶の中に。
千年先の地球と共に。



SC 株式会社三祐コンサルタンツ
Sanyu Consultants Inc.

“おいしい”はエサで、できている

中部飼料株式会社

[本 社] 愛知県名古屋市中区錦二丁目 13-19
[事業内容] 配合飼料の製造販売、
有機入り配合肥料の製造販売等
[問合せ先] 052-204-3051
saiyo@chubushiryu.co.jp
採用担当：山崎



会社説明動画

KWIX 印刷業から情報デザイン業へ

Info. + Design

長年培った表現技術を活かし、「印刷業」から「情報デザイン業」へと進化していきます。

販促支援サービス

マニュアルサービス

P&Dサービス

教育出版支援サービス

株式会社 クイックス

http://www.kwix.co.jp

■ 本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL 0566-24-5511 FAX 0566-26-0200

代表取締役社長 岡本 泰

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT
Salat Corporation

株式会社 サラト http://www.salat.co.jp/

本 社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社



【本社】〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600
<http://moritakk.com/>

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン	三洋電機
東京理化	タイテック
旭硝子	日本エイドー
久保田商事	オートー
名古屋三立製作所	アドバンテック東洋

MZH

株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
 TEL 052-831-8800
 FAX 052-834-4117
 E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp

mizkan
 やがて、いのちが変わるもの。



<採用お問い合わせ先>

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中荳ビル
 ミツカングループ人事本部
 TEL : 03-3555-2609 / MAIL : saiyo@mizkan.co.jp

農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約10,000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。